

生活習慣病モデルマウスに対するグアーガム分解物の有効性 ICoFF2019(第7回国際フードファクター会議、神戸)で発表

太陽化学株式会社(本社:三重県四日市市)、東京大学、京都府立大学、京都府立医科大学、三重大学は、2019年12月4日(火)神戸コンベンションセンターにて開催されるICoFF2019(第7回国際フードファクター会議、神戸)において、生活習慣病モデルマウスに対するグアーガム分解物の有効性について発表します。

ポスター番号:PB0812

発表演題:「Efficacy of Partially Hydrolyzed Guar Gum on high fat diet-induced metabolic syndrome in mice」

Aya Abe(安部 綾)^{1,2}、Keiko Abe(阿部 啓子)²、Ryo Inoue(井上 亮)³、Yuji Naito(内藤 裕二)⁴、Zenta Yasukawa(安川 然太)^{1,5}、Makoto Ozeki(小関 誠)^{1,5}、Tsutomu Okubo(大久保 勉)^{1,5}、Shinji Okada(岡田 晋治)²

¹太陽化学、²東京大学、³京都府立大学、⁴京都府立医科大学、⁵三重大学

近年、世界中で肥満人口が増加しており、肥満に伴うメタボリックシンドローム、生活習慣病は世界共通の問題となっています。また、腸内細菌叢の生活習慣病への関与が示唆されています。水溶性食物繊維のグアーガム分解物であるサンファイバー®は腸内環境改善作用および脂質代謝や糖代謝改善作用が知られています。そこで、サンファイバー®の生活習慣病予防効果の詳細なメカニズム、特に腸内細菌叢を介した作用について調べました。高脂肪食を負荷した生活習慣病モデルマウスに12週間、飼料に対し5%のサンファイバー®を摂取させた結果、サンファイバー®摂取により腸内細菌叢および腸内細菌代謝物が大きく変化し、肝臓で脂質蓄積やコレステロール合成に関する遺伝子発現が抑制され、エネルギー代謝に関する遺伝子発現が上昇しました。またいくつかの腸内細菌代謝物と肝臓の遺伝子発現に相関がみられました。以上から、サンファイバー®の生活習慣病予防効果に腸内細菌叢および腸内細菌代謝物が関与することが示唆されました。

<本件についてのお問い合わせ先>

太陽化学株式会社

〒105-0013 東京都港区浜松町1丁目6番3号

TEL:03-5470-6810 FAX:03-5470-6804

E-mail:support@taiyokagaku.co.jp

